

# 妊娠時の降圧剤の使い方

# 妊娠初期の血圧治療

## 妊娠初期

### • アルファメチルドパ＝アルドメット

- 中枢の交感神経  $\alpha 2$  受容体を刺激し、末梢における交感神経の活動を抑えることで、血管を拡張させ血圧を下げる薬
- 初期1日250～750mgの経口投与からはじめ、適当な降圧効果が得られるまで数日以上の間隔をおいて1日250mgずつ増量する
- 維持量は1日250～2000mgで1～3回に分割経口投与する

### ヒドララジン＝アプレゾリン

1日30～40mgを3～4回に分割経口投与し、血圧値をみながら漸次増量する。維持量は各個人により異なるが通常成人1回20～50mg、1日30～200mgである。

### ラベタロール（ $\alpha$ 、 $\beta$ ブロッカー） トランデート

$\alpha\beta$ 遮断薬という系統です。同系のなかでは以下のような特徴をもちます。効力比 . . .  $\alpha$  :  $\beta$  = 1 : 3 1日150mgより服用を開始し、効果不十分な場合には1日450mgまで漸増し、1日3回に分割、経口服用する。なお、年齢・症状により適宜増減する。

妊娠中期

カルシウム拮抗薬＝妊娠20週以降有効長時間作用型ニフェジピンは使用可能

$\alpha$ 、 $\beta$ ブロッカーラベタロール＝トランデート

1日150mgより服用を開始し、効果不十分な場合には1日450mgまで漸増し、1日3回に分割、経口服用する。なお、年齢・症状により適宜増減する。